

あーそうですか。「ああそうですか。あの有名なK中学ですか。」これは11月5日、神戸マリンスポーツセンターでスケート遠足引率したとき、スケートの指導員、ニュートラムの駅員さんから出た言葉だ。本当に有名になったものだ。

事件の発端となったのは、8月10日の読売新聞「バリカンで丸刈りにされた」という記事だ。この記事は大阪の市民グループ「JHC（学校に不満を持っている中学生の会）が支援する大人の会」が8月9日に開いた集会に、本校から5～8名の3年生男子が参加し、現状を訴えたことが始まった。

1. 頭髪問題の背景

本校は開校以来、男子は丸刈りは生徒心得に明記されている。30年前に長髪になったことがあったようだが、学校が荒れたということがあり、その2年後元の丸刈りに戻った。その後丸刈りが続いていたことになる。毎年のように「生徒会本部役員」の選挙公約の中に「丸刈り廃止」が掲げられてきたようだ。

今回も6月に「丸刈り廃止」を訴えて3年の一部の男子が学校長に直訴を行っている。これを受けて、6月の職員会議では長髪化の方向に進むということが決定され、校内頭髪検討委員会の設置も提案された。

学校長より

本当はここが問題で、これまで頭髪問題は教職員の間では一種の「タブー視」触れられない問題としてあった。本年度は引き続き「丸刈りの方針」は変更しないとする学校長の発言があったため、頭髪問題は職員の間でも討議されていなかった。よって対応が遅れたと私は見ている。校長交渉を行った生徒たちは、緊急解決を求めるあまり、先の集会に参加したとも考えられるが、このことがこれ程大きな混乱を招くとは、その時点の、私を含めて教師には展望できなかったというのが正直な所だ。



2. 正義をふりまくマスコミ

マスコミ報道はその後

8月21日、毎日夕刊「服装違反は帰れ！よて40日も学校欠席」

8月23日読売テレビ報道「今どきなぜ丸刈り」「バリカンを持って先生が追いかけて回す」

9月3・4日 朝日・毎日 赤松良子文相「丸刈りは戦争中の兵隊を思い出しゾツとする」発言

9月7日、毎日「バリカン丸刈り限りなく体罰に近い」大阪市教育局が文部省に異例の指導を受ける。

9月13日法務局法務局大阪市教育局に事情聴取

9月14日NHK・毎日・朝日・読売などテレビ局取材。

8月の下旬から9月上旬にかけて、マスコミ報道は地域、保護者、教師、生徒を動揺させるのには充分だった。やはり一番困ったことは、マスコミは正義であるというとらえ方にあるのだ。事実無根の内容があたかも真実のように報道され、特に保護者・生徒の学校不信は日一日と増すばかりだった。ペンの暴力に対応できない歯がゆさ、と子どもたちの不信の目に心が痛む日が続いた。

3. 丸刈り廃止その後

生徒85%を保護者70%の丸刈り廃止賛成の中で、11月1日をもって本校の丸刈り規定はなくなった。かれこれ1カ月経過した現在マスコミ報道が少なくなった分、平穏を取り戻したかのように見えるが…。生徒保護者の信頼がなかなか取り戻せないのが現状である。生徒の中には「要求」と「わがまま」を取り違え、教師の指導には耳を貸さないようになりつつある。服装違反、大幅な遅刻、授業エスケープ、今はどのように信頼を回復させていくのが学校の緊急課題となっている。

